



薬物乱用防止教室



(写真：守山署の方の話を聞く生徒)

11日(金)6時間目に「薬物乱用防止教室」が行われました。講師は守山警察署少年係長の柴田さんです。守山区や尾張旭市の少年少女の犯罪に精通した方からの話でしたので、薬物の恐ろしさや、身近な場所で起きた薬物に関わる事件の話を聞きことができました。そして最後に『ドラッグの悲劇』という危険ドラッグを使用した少年の身に起きた出来事の再現ドラマを見ました。

保健の授業で、3年生の2学期の期末テストの範囲に薬物乱用防止について学ぶところがありましたので、生徒たちは最低限の知識がある状態で、今回の講話を聞くことになりました。しかし、実際に教科書に書いてあることと、警察官がその目で見て関わってきた事件を比べると、教科書では到底表現しきれない壮絶な事件ばかりであることがわかりました。守山署管内で今年の1月から今日までで18人もの人が薬物違反で検挙されたことや、危険ドラッグを使用してしまい、守山区で救急搬送された人がいたこと、薬物ではないものの、ガスパン遊びでみよし市の15歳の少年が亡くなったことなど、危険な薬物が人体に与える影響の恐ろしさを感じずにはいられない内容でした。

薬物乱用防止教室を終えての生徒の感想です。(紙面の都合上一部の生徒のみ掲載)

- ・ 中毒になると自分が何をしているかが自覚できないのが一番怖いと思った。 山岡くん
- ・ 薬物中毒になると、自分が自分でいられなくなるのが恐ろしいし、取り返しのつかないことになってしまうのだということがわかった。 植田さん
- ・ 「薬物」というものがそもそもよく理解していなかったが、写真や副作用などを細かく教えてくださり、よく理解できた。理解することで絶対に手を出してはならないものと思った。 児玉くん
- ・ 最初は薬物を使っても少しだけ幻覚をみるだけかなと思っていたけれど、DVDや話から、薬物がとても怖いものと感じた。一回の使用がもう元に戻れないと思うとより怖くなった。 上野さん
- ・ DVDを見て、すごくリアルでした。こんなことありえないと思っても、これが本当の薬の恐ろしさだと思うと、ゾッとしました。薬は自分の人生を変えるし、良いことはないと思いました。 深見さん
- ・ 講話を聞く前と後で、危険ドラッグへの恐怖心や、「やりたくない」という気持ちが大きく変わりました。今後、危険ドラッグを進めてくる人に出会っても断る気持ちを強めていきたいです。 山口くん
- ・ 危険ドラッグの副作用の恐ろしさがわかったけれど、入れ物や見た目が可愛い柄のものがあって、だまされないようにしたいです。一人一人が気をつけなければいけないと思いました。 椎屋さん
- ・ 危険な薬物を使うと、あんな恐ろしいことになって、怖いなど思った。絶対にやりたくないし、誰かに誘われても絶対に断ろうと思った。 平山くん

教科書からは読み取れない「恐怖」「断る勇気の大切さ」を学べたみたいですね。警察署の方の話の内容と、恐ろしいDVDの内容を中学生の間だけではなく、いつまでも忘れずに生活していきましょう。

